

# ジョージ・オーウェル：“歴史は1936年に終わった”、以後 のすべてはプロパガンダ

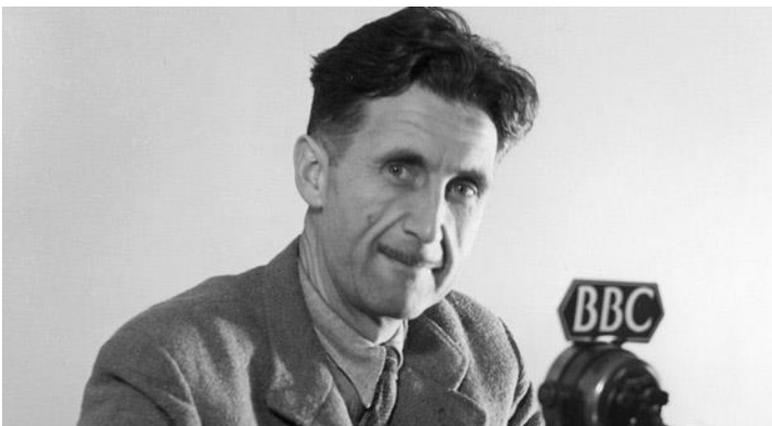
## 予言者作家が歴史的出来事の手操作を論ずる

【訳者注】確かに、オーウェルの『1984』は、半世紀以上の昔に、今のこの時代を見抜いていて分析しているように読める。“ビッグ・ブラザー”と呼ばれる、何者かわからない権力者が、我々の一挙手一投足から心の中まで、管理し支配している。“正しく”考え行動しない者には、恐ろしい拷問が待っている。これだけの社会管理・人間管理をするには、途方もない頭脳とエネルギーを要するはずだが、この犯罪的体制に協力する者が大勢いて、なんとなくうまくいっている。

彼らの最大の武器はプロパガンダで、これなしにはこの社会は成立しない。これも現在と変わらず、我々のメディアは、プロパガンダを真実として報道している。疑いをはさむこと自体が犯罪になっている。これは民衆をだましてウソを真実と思わせる戦略だが、民衆はおかしいと思っても、口にしないことになっている。例えば、先日のラスベガスの事件で、本当のことを言ったために死体で発見された人が数名（7名？）いるはずだが、この事件はすでに問題でなくなっている。そんなことを暴き立てる者は犯罪者であって、一般世間も“常識”に従うことによって、安穩に生活させてもらっている。

Jay Greenberg, [www.nnettle.com](http://www.nnettle.com)

November 15, 2017



後からの知恵で、George Orwell  
(1903–1950) は、しばしば予  
言作家と呼ばれている

20世紀の最大の作家の一人と言ってよいジョージ・オーウェルは、不気味にも、我々の今日の現実となった逆ユートピアの未来世界を、しばしば描いた。

<http://www.nnettle.com/tags/george-orwell>

彼の最も有名な作品 *1984* は、すべての市民の意識の中へプロパガンダを植え付け、人々を洗脳する、全体主義的な new world order によって、人々が奴隷化される世界を想像したものである。<http://www.nnettle.com/tags/new-world-order>

多分、現代世界であれば、このような物語を夢想することは容易いであろう。しかしオーウェルの『千九百八十四年』は、1949年に初めて出版されたものである。

彼の言っていることが、恐ろしく正確なので、多くの人々が、彼はきっと未来予知能力をもっていて、現代世界を、テクノロジーやマスメディアに支配されたシミュレーションとして、正確に予言することができたのだらうと言っている。

*1984* とは別に、ジョージ・オーウェルが、何十年も前に、「歴史は 1936 年にとまった」と言ったとき、それは、現代人の主流メディアによる奴隷化に対する警鐘だった。

IT によれば、人を引き付けるこの言葉の出どころは、オーウェルの小説 *1984* ではなくて、彼の 1943 年のエッセー “Looking Back on the Spanish Civil War” (スペイン内戦を振り返る) だった。<http://www.intellectualltakeout.org/article/orwell-history-stopped-1936-and-everything-propaganda> [http://orwell.ru/library/essays/Spanish\\_War/english/esw\\_1](http://orwell.ru/library/essays/Spanish_War/english/esw_1)

これは、オーウェルのスペイン内乱 (1936–39) への参戦の回想として書かれたもので、彼はフランコに導かれたファシストに反対する共和国側で戦った。

オーウェルによれば、プロパガンダが、現代の全体主義的体制を支えるために、浸透して使われていることに彼が気づいたのは、スペイン内乱のときであった。

私はかつてアーサー・ケストラーに言ったことを覚えている、「歴史は 1936 年にとまった」と。すると彼は、直ちに理解して頷いた。我々はともに全体主義一般のことを考えていたが、特にスペインの内戦のことを考えていた。若いころから私は、どんな出来事も、新聞に正確に報じられることはないと思っていましたが、スペインで初めて、事実に関係なく、普通のウソに伴うようなものさえない、新聞報道を見た。私は、何の戦闘も起こっていない場所で、大戦争が起こったと報じられているのを見た。また、何百

人も人々が殺された場所についての、完全な沈黙を見た。私は、勇敢に戦っている人々の部隊が、卑怯者とか裏切り者として弾劾されている有様、また、一発の弾も撃ったことのない人々が、でっちあげの勝利の英雄として、喝さいされているのを知った。私は、ロンドンの新聞が、これらのウソを小売りし、熱心なインテリたちが、まったく起こってもいない出来事の上に、感情的な上部構造を築き上げているのを見た。私は実際、歴史というものが、起こったことの観点からでなく、いろんな“党の路線”に応じて、起こるべきだったことの観点から、書かれるものであることを知った。

オーウェルの見た上記の事実は、第二次大戦時代に活発となり、ナチス・ドイツや、共産主義ロシアのような、世界の自由への脅威となる全体主義体制によって利用された。

しかしそれ以来、多くの思想家が、アメリカや他の西側諸国が“ソフト全体主義”へと移行しつつあると論じている。そこでは、快楽を追求し、ますます孤独になっていく人々が、彼らの自由を過激なイデオロギーに明け渡し、それが教育とプロパガンダの着実な流れによって、根を張っている。<http://www.theimaginativeconservative.org/2017/04/america-devolving-soft-totalitarianism-bruce-frohnen.html>  
<https://home.isi.org/specter-soft-totalitarianism>

<https://youtu.be/R0RV3mVHWfE> (ビデオ：映画 1984 トレーラー)

現代世界がプロパガンダに依存する結果として、オーウェルは、過去の出来事——スペイン内乱や第二次世界大戦のような——の真相への我々のアクセスは、ひどく危なっかしいものになる、とオーウェルは認めている：——

こうしたことは私には恐ろしいことである。なぜなら、客観的真理という概念自体が世界から消えてしまうという感覚を、それは与えるからである。結局、これらのウソ、少なくともよく似たウソが、歴史の中に入ってしまうだろう。…しかし結局は、何らかの歴史は書かれなければならない。そこで戦争を現実記憶している人々が死んだ後は、それが普遍的に受け入れられるだろう。そして、すべての現実的な目的のためには、そのウソが真実になってしまうだろう。

オーウェルは、歴史に関してナイーブではなかった。

彼は、歴史は本質的に長いウソのリストであると言うことが“流行”だと言い、多くの歴史作家が、「意図的にウソをつき、…あるいは自分の書くことを無意識に脚色する」可能性を認めた。

しかし「我々自身の時代に特有なのは、歴史は真実性をもって書くことができるという考えを放棄したことである」と彼は言った。「どの歴史家も、他の歴史家に真剣に反対することのできない、中立的な事実の集合というものがある。」

もし本当なら、オーウェルの反省は、ある恐るべき結論に達する。

すなわち、過去のプロパガンダが、いま我々の歴史だということ、今日、我々がニュースで見るプロパガンダが、ある日、我々の未来の世代によって“真理“として研究されるだろうということ、そして現実の構造は、相対主義とマスメディアの時代では、我々の把握を越えたかなたへ、広がっていくということである。